

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科助教：マティア先生 / リア先生

リベラルアーツ学部における生きた英語教育での活用

「広さと深さ」を求めるのがリベラルアーツ教育。人文科学から社会科学、自然科学にいたる学問を「広く」学術的に学び、特定専門領域を多角的な視点から「深く」追求し、「世界がわかる、自分がかわる」リベラルアーツ教育を展開していますが、その基盤を支える導入必修科目として位置づけられている English Communication を担当されています。2004 年度当初から Blackboard@Tamagawa を活用され、ご自身でリスニング教材の吹込みをして、学生の英語力の向上に力を尽くされている事例をご紹介します。



バリー・マティア先生

スティーブ・リア先生

科目の実施規模と講義での Blackboard の活用

◆科目名：イングリッシュコミュニケーション I (春学期開講、4 単位)、II (秋学期開講、4 単位)
リベラルアーツ学部 1 年次の必修科目 194 名受講、教員 5 人で担当

◆授業の概要：形式および内容の異なる 4 つのコースを同時受講していくユニークな構成。「クラス単位コース」と「英語力と英語学習意欲別クラス編成」で実施。著者の二人は、ホームルーム単位の授業を担当。スティーブが「インターネットイングリッシュ (50 分)」、バリーは「リーディング (50 分)」を担当。また学力・意欲別編成のクラスは、我々に加え 3 名の教員、計 5 名で行い (100 分)、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの 4 技能をバランスよく織り交ぜた内容。

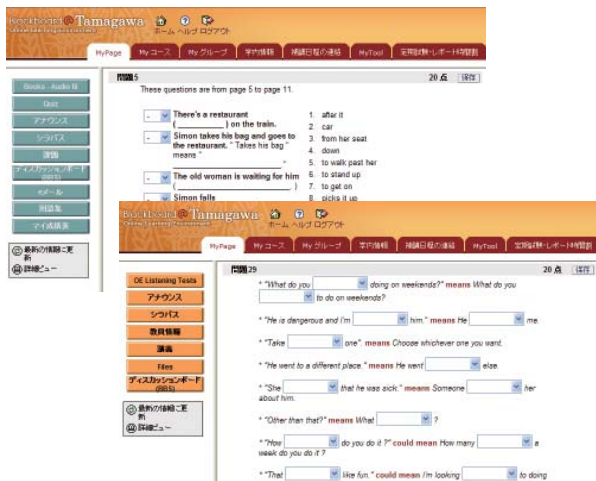
多様な Blackboard の活用方法について紹介します。

Blackboard によるオンラインイングリッシュ

4 つめのコースは「オンラインイングリッシュ」という名称で、全て Blackboard を介して行われます。科目評価の 20% を占めるこのコースでは、毎週、リーディングとリスニングから選りすぐりの教材が掲示されます。教材は 1 週間アクセス可能で、その間、受講学生は何度でも英文を読み、音声ファイルを聞くことができます。週の終わりまでに 20 ないし 40 程度の設問に答え、送信することで課題の完了です。4 週毎には、「インターネットイングリッシュ」の教室でリスニングテストを行います。このリスニングテストは辞書や友達の助けを借りずに、50 分以内に終わらせなくてはなりません。反対に、普段の課題については、学生達は教室外で励ましあい、協力しあって、英語に慣れ親しむことができるわけです。

設問付のリーディング、リスニング教材を作成し、アップロードしていくのは大変に時

間のかかる作業です。Blackboardの優れた点は、一旦アップロードした素材を、他のBlackboardコース、次学期や、翌年にエクスポートができる点です。使わないものも蓄積されますから、いつでも手を加えて再利用することができます。教員が授業計画に追いつかないような時には、まるで救世主です。



インターネットイングリッシュでの Blackboard 使用

この授業では、Blackboardを通してインターネットにアクセスし、様々な英語の課題をこなしていきます。ディスカッションボードやサーベイなどの機能を使うこともあります。

リーディングでの Blackboard 使用

リーディングでは、多読法 (extensive reading) を推進しています。受講学生はレベル別のリーディング教材から、毎週好きなものを選び、授業外の時間に読むことが課されています。多読法が外国語学習者に効果的であるもうひとつの側面は、楽しんで読むという点です。ここでも Blackboard の機能が発揮されます。教材として受講学生は文字とともに音声を楽しむことができるよう音声ファイルを作成し、PDF 形式の文書ファイルと共にアップロードしました。学生は文字、音声の両方を Blackboard 上で堪能することができ、好評です。

思いがけない Blackboard の学習効果

Blackboard のアナウンス機能は大変便利で

す。「リーディング」と「インターネットイングリッシュ」は6クラスに分かれているので、全受講学生に同じ情報を正しく伝えるということは、至難の業です。アナウンスメント機能はこの問題を解決してくれます。さらに、外国語学習では、この情報伝達ということ以外にも、顕著な学習効果が実感できます。受講学生は、学んだ言語が実際に機能する場面に向き合うこととなります。アナウンスメントは通常、数行の英語で構成されますが、それでも生きた英語に慣れ親しむ良い機会です。そこには、英語だけの問題ではなく、論理的な思考や、言語化されない了解事項などが含まれるため、はじめは戸惑う受講学生もいます。そこに日常的な文字情報をめぐる認知や解釈を鍛錬するプロセスが生まれます。対面型の教室では、何人かの決まった受講学生が、教員の質問や指示の意味内容を明確に把握するための質問を繰り返す光景が見られます。しかし、Blackboard を介して伝達されるアナウンスメントでは、このような支援は受けられません。一人ひとりが個別に情報に向き合い、解釈と対応のプロセスを踏まなくてはならないのです。



リーディングでの Blackboard 使用

おわりに

誰もが使いこなせる便利なアナウンスメント機能から、まだ咀嚼できていない高度な機能までを含む Blackboard を私たちはこれを年を重ねるごとに、より効果的に活用しています。大学教育の未来が、学生をどのように導き、授業をどのように進化させていくのか期待に胸が膨らみます。Blackboard は確実にその一端を担っていると実感しています。(翻訳：猿橋順子)

「国際大学戦略セミナー "Building the 21st Century Campus" ーグローバル化時代の大学経営ー」

国際大学戦略セミナーが、2007年6月29日（金）ホテルパシフィック東京において開催されました。Blackboardをeエデュケーションシステムとして利用推進している本学による基調講演が、小原芳明先生より「社会の期待に応える教育 On Demand Education」と題して行われました。「時代に対応した教育改革」を進める中で、デジタル知識が普及しても知識の正邪善悪を識別する力・価値の有無高低を判定する尺度など、知識を活用する人間には必要不可欠な心の教育が必要であるとともに、社会の需要を満足する教育＝オンデマンド教育が、これからの大学教育が目指すべきものであると話されました。



その後、「教育評価と向上」と題して北米ですでに活用が始まっているアウトカムシステムについての報告、学部系列別に6大学よりLMS活用事例の報告、また、「学生中心の学内リソースの活用」と題して、アカデミックポータルとして利用が拡大している本学（eエデュケーション副センター長 橋本順一）と岐阜大学より、実践例の報告をいたしました。当日は、全国大学関係者136名が参加されました。



その後、「教育評価と向上」と題して北米ですでに活用が始まっているアウトカムシステムについての報告、学部系列別に6大学よりLMS活用事例の報告、また、「学生中心の学内リソースの活用」と題して、アカデミックポータルとして利用が拡大している本学（eエデュケーション副センター長 橋本順一）と岐阜大学より、実践例の報告をいたしました。当日は、全国大学関係者136名が参加されました。

Blackboard@Tamagawa

バージョンアップについて

Blackboard@Tamagawa が2007年8月にバージョンアップします。

◆改善点 (7.3.159.0)

- ・コース統計文字化けの修正
- ・アセスメントの保存機能の改善

◆新機能 アナウンスのeメール送信機能 (7.3.159.0)

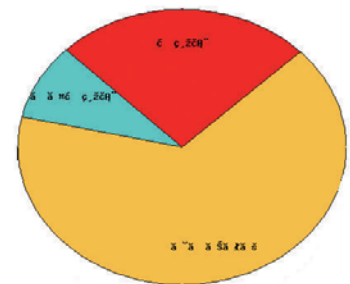
アナウンス掲載時、同時にアナウンス内容を履修者にeメール送信する機能です。アナウンスの追加・変更画面で「アナウンスのeメール」をチェックすると、コースに登録された学生にeメールを送信します。eメールにコースリンクは含まれません。

◆新機能 早期警告システム (7.3.159.0)

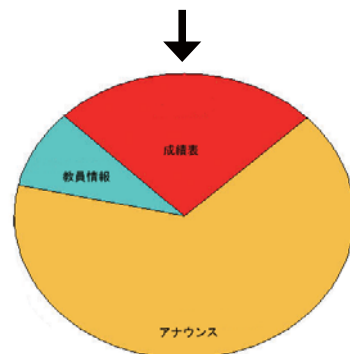
ルールを作成し、それに該当する学生を抽出しeメールにて容易に警告を伝えることができます。

◆バージョンアップ作業時期について

バージョンアップ作業、秋学期コース準備作業のため8月下旬、夏期一斉休暇中にサーバを停止いたします。作業予定が決まりましたらメールにてご連絡させていただきます。



現行バージョン (7.1.324.28)



新バージョン (7.3.159.0)

講義収録システム

04 「Xinics Presto」のご紹介

Xinics Presto（以後、Presto と記述）は、講義やプレゼンテーションの様子を臨場感豊かに記録することが可能なアプリケーションです。授業や学生発表で使用した PowerPoint 資料と発表者の映像を自動的に合成してコンテンツの作成を行います。また、多彩な編集機能により、品質の高いコンテンツを作成することが可能です。学生が利用している MyPC は、Windows が大多数を占めますが、一部の学部では Macintosh を利用しています。Presto では Windows でも、Macintosh でも再生できる形式なので、受講者のパソコンを選びません。



授業名：情報倫理とセキュリティ



[板書有りの例] 授業名：分子生物学

◆主な用途と特長

・講義や講演をコンテンツ化

教室の講義や講演を撮影し、コンテンツ化できます。学生は講義の復習として何度も繰り返し視聴することが可能です。また、講義中のスライドへの書き込みも保存されるので、重要ポイントの強調ができます。

・学生のプレゼンテーションスキルの向上のために活用

学生自身の表情、動作を中心とした撮影を行ったビデオ部分と、プレゼンテーション資料をあわせて Presto でコンテンツ化、学生は自分のプレゼンテーションを確認し、スキルの向上に役立ちます。その他、動画と資料との同期によってガイド・マニュアル・コラム解説などの相乗効果が期待できます。

ご使用希望は、メディア教育推進室へご連絡ください。また、Blackboard「2007V- 教員向け教材掲載・マニュアルコース」にも Presto マニュアルが掲載されていますので参考にしてください。

編集後記

今回は Blackboard@Tanagawa の多言語対応ゆえ、円滑かつ教育的に活用している語学の先生を代表して活用事例を報告していただきました。また 2007 年度新任研修会で「本学の e エデュケーションについて」説明の機会を得、ご新任の先生方には就任早々活用していただいています。前回紹介した「ネットミーティング」にあわせ、今回の「動画 + 授業資料の同期」コンテンツを紹介します。ご利用ください。

e-Education NewsLetter 2007 Vol.2

2007 年 7 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp